

第3章

本計画の目指すもの

1 基本理念

2040 年を展望した本市の基本構想・基本計画「八王子未来デザイン 2040」。基本構想では、基本理念である「人とひと、人と自然が響き合い、みんな幸せを紡ぐまち八王子」に基づき 6 つの都市像を定めており、その中の 1 つの都市像として「健康で笑顔あふれる、ふれあい、支えあいのまち」が位置付けられています。

このことから、本計画は、「健康で笑顔あふれる、ふれあい、支えあいのまち」を健康医療の分野から実現するため、国及び東京都の方向性や考え方、健康医療を取り巻く現状を踏まえつつ、ヘルスプロモーションの理念に基づき第 3 期保健医療計画の目標や視点、考え方を踏襲します。

健康寿命の延伸と健康格差の縮小を目指し、誰もが住み慣れた地域で互いに支えあい、健康でいつまでも元気に生きがいを持って暮らしていけるよう、本計画の基本理念は、前計画に引き続き「自分で、家庭で、地域で、笑顔あふれる健康なまちづくり」と定めます。

自分で、家庭で、地域で、 笑顔あふれる健康なまちづくり

*前段はヘルスプロモーションの理念を、後段は「八王子未来ビジョン 2040」の都市像 2 を表しています。

- 《個人》 (自助)市民が自ら行うこと
- 《地域・団体》(共助)その取組を支援する地域、関係団体が行うこと
- 《行政》 (公助)行政が行うこと

コラム 「ヘルスプロモーション」とは？

ヘルスプロモーションとは、「人々が自らの健康とその決定要因をコントロールし、改善することができるようにするプロセスである（1986年、世界保健機関）」とされています。様々な主体が知識や技術の提供、組織活動、環境づくり、それらにかかわる政策の側面からサポートすることによって、市民自らの主体的な取組による健康づくりがより効果的に、より容易に達成できるようにするプロセスです。

人の一生を坂道にたとえると、人々は幸福な人生を実現するために、一步一步、坂道を登っていきます。その人生の坂道を「健康の玉」を押し上げながら登って行くこととすると、ヘルスプロモーションは、健康的な公共政策により、「知識や技術の提供」と「組織活動」により坂道で玉を押すことを手伝い、「健康を支援する環境づくり」をすすめることで坂道そのものの勾配を緩くして登りやすくすることといえます。

2 計画の視点

(1) 視点

本計画は、「自分で、家庭で、地域で、笑顔あふれる健康なまちづくり」を基本理念とし、第3期保健医療計画と同様に2つの視点から取り組むこととします。

【視点1 いつまでも元気で健康的な生活を送るために】

市民一人ひとりが、年代や性別、その他個人をとりまく条件・状況に合った健康づくりをすすめるために、家庭や地域、学校、職場において、総合的に支援を行とともに、日常生活の中で健康になれる環境づくりを推進します。

またセルフケア能力を高める支援を通して一人ひとりの健康を育みます。

成果指標

健康のために「こころと身体にいいこと」をしている市民の割合

初期値	目標値
90.9%	95.0%

基本目標1-1 ライフステージや環境の特性(ライフコース)に合わせた健康づくりの推進

働きかけや環境整備により、切れ目なく、取り残されることもなく施策が浸透し、市民の健康状態が改善することを目指します。

基本目標1-2 安全で健康的な生活を安心して送れる環境づくりの推進

保健所としての機能を発揮するとともに、市内全域に健康増進に向けた取組が広がることを目指します。

【視点2 住み慣れた地域で安心して医療を受けられるために】

市民が住み慣れた地域で、安心して生活が継続できるよう、日常の医療体制及び在宅療養体制を充実します。

また、救急時や災害時等に適切な医療を提供するため、緊急時の医療体制を充実します。

成果指標

安心して医療を受けられるまちと感じている市民の割合

初期値	目標値
69.2%	85.0%

基本目標2-1 日常の医療体制の整備

市民が上手に医療機関を選ぶとともに、医療人材を育成し、役割分担による連携体制を充実することで、安心して医療を受けられる地域を目指します。

基本目標2-2 緊急時の医療体制の整備

体制の整備及び市民への周知を通して、市民が安心して救急医療や治療・災害時の医療等を受けられることを目指します。

基本目標2-3 在宅療養体制の整備

医療と介護の連携や相談支援体制の整備などにより、住み慣れた地域や自宅で生活できることを目指します。

(2) 施策推進のキーワード

POINT 1 切れ目ない・取り残さない

家族構成の変化(単身者の増加や核家族化の進行)に伴い、孤立・孤独の問題が深刻化する中で、すべての年代において、生活する環境、社会経済状況や障害の有無等に関わらず切れ目ない支援に努めます。

POINT 2 オール八王子で

各施策の部署を明確にするとともに、本計画に関わる職員が理解し、業務を円滑に推進できるよう周知を図ります。

また、関係機関及び医療関係団体、市民、事業者等が連携して、社会全体で健康づくりを支援できる計画とします。

POINT 3 伝える・つなげる

特定健診の結果やレセプト、その他市民の健康等に関わるデータを活用し、わかりやすい情報発信・周知を行うほか、適切な支援につなげます。

また、SNS等を活用した健康情報の積極的な発信のほか対面だけでなくオンラインによる相談等、市民により便利な方法での支援を図ります。

POINT 4 根拠づける・成果と連動させる

現計画における施策の目的を整理の上、市民意識調査結果等の主観的評価、現計画の達成状況及びその他のデータ分析などの客観的評価の両方に基づき、現計画における施策のうち、今後取り組むべき課題を抽出し、次期計画において必要な対策を整理しています。

また、事業・施策において、アプリや各種データを連携させ、効果の評価や推計を実施することにより、根拠をもって効果的に推進します。

コラム 「EBPM(根拠に基づく政策立案)」とは? 等

EBPMは「根拠に基づく政策立案」と訳され、確かなエビデンス(合理的根拠)にもとづいて政策の決定や実行、効果検証を行うことを意味します。

エビデンスにもとづく政策を実践するためには、行政が資源として持っているデータの活用が必要不可欠です。行政が資源として持っているデータの一例に、「国保データベース(KDB)システム」(以下、「KDBシステム」)があります。KDBシステムとは、国保保険者や後期高齢者医療広域連合における保健事業の計画の作成や実施を支援するため、国保連合会が「健診・保健指導」「医療」「介護」の各種データを利活用して、統計情報や個人の健康に関するデータを作成するシステムです。

EBPMによる政策の効果を高めるためには、単にエビデンスを収集するだけでなく、政策の手段や目的を整理し、評価をどのように行うのか段階的に考えて設計することが大切です。KDBシステムから提供されるデータを分析することにより、地域住民の健康課題を明確化し、確かなエビデンスにもとづいた政策立案が可能になります。

(3) 八王子市健康医療計画のコンセプト

自分で、家庭で、地域で、笑顔あふれる健康なまちづくり



- 下支えとなる考え
- 視点1 基本目標1【健康増進】
疾病を併発させないため
疾病の重症化をさせないため
 - 視点1 基本目標2【保健所機能】
公衆衛生の向上などの観点から、市民の健康の保持増進のため
 - 視点2 基本目標1.2.3【医療体制】
万一、健康を損なったとき、健康回復に向けた医療支援等を実施する体制を整備するため

3 計画の体系

(1)八王子市健康医療計画の体系

基本理念	視点	基本目標	施策	
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">自分で、家庭で、地域で、 笑顔あふれる健康なまちづくり</p>	<p>視点1 いつまでも元気で健康的な生活を送るために</p>	<p>基本目標1-1 ライフステージや環境の特性(ライフコース)に合わせた健康づくりの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1-1-1 生活習慣の改善と生活機能の維持、向上 1-1-2 生活習慣病の発症と重症化の予防 1-1-3 生涯にわたる歯・口腔の健康づくりの推進 1-1-4 がん予防と早期発見 1-1-5 地域とつながる健康づくりの推進 1-1-6 こころの健康づくりと自殺対策の推進 1-1-7 健康になれるまちづくりの推進 1-1-8 女性特有の疾病予防に対する支援と女性の健康づくり 1-1-9 妊娠期からの切れ目のない支援の充実 	
		<p>基本目標 1-2 安全で健康的な生活を安心して送れる環境づくりの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1-2-1 安心・安全な衛生環境づくり 1-2-2 薬の安全、薬物乱用防止対策、家庭用品の安全確保 1-2-3 感染症の予防と対応 1-2-4 人と動物が共生するまちづくりの推進 	
		<p>視点2 住み慣れた地域で安心して医療を受けられるために</p>	<p>基本目標 2-1 日常の医療体制の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> 2-1-1 かかりつけ医・歯科医・薬剤師の普及定着 2-1-2 中核病院を主体とした医療機関相互の連携強化 2-1-3 小児・妊産婦に対する医療等の体制整備 2-1-4 安心して医療にかかるための相談体制の整備 2-1-5 医療人材の育成・確保
		<p>基本目標2-2 緊急時の医療体制の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> 2-2-1 救急医療体制の充実 2-2-2 災害時の医療体制の充実 	
		<p>基本目標 2-3 在宅療養体制の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> 2-3-1 地域包括ケアシステムの推進 2-3-2 障害者・難病患者・がん患者などの療養体制の整備 	

切れ目のない・
取り残さない

オール
八王子で

伝える・
つなげる

根拠づける・
成果と連動
させる

(2)第4期八王子市地域福祉計画との連携

健康医療計画の基本目標と施策

第4期地域福祉計画の施策と細施策

基本目標1-1 ライフステージや環境の特性 (ライフコース)に合わせた 健康づくりの推進	1-1-1	生活習慣の改善と生活機能の維持、向上
	1-1-2	生活習慣病の発症と重症化の予防
	1-1-3	生涯にわたる歯・口腔の健康づくりの推進
	1-1-4	がん予防と早期発見
	1-1-5	地域とつながる健康づくりの推進
	1-1-6	こころの健康づくりと自殺対策の推進
	1-1-7	健康になれるまちづくりの推進
	1-1-8	女性特有の疾病予防に対する支援と女性の健康づくり
	1-1-9	妊娠期からの切れ目のない支援の充実
基本目標1-2 安全で健康的な生活を安心して送れる健康づくりの推進	1-2-1	安心・安全な衛生環境づくり
	1-2-2	薬の安全、薬物乱用防止対策、家庭用品の安全確保
	1-2-3	感染症の予防と対応
	1-2-4	人と動物が共生するまちづくりの推進
基本目標2-1 日常の医療体制の整備	2-1-1	かかりつけ医・歯科医・薬剤師の普及定着
	2-1-2	中核病院を主体とした機関相互の連携強化
	2-1-3	小児・妊産婦に対する医療等の体制整備
	2-1-4	安心して医療にかかるための相談体制の整備
	2-1-5	医療人材の育成・確保
基本目標2-2 緊急時の医療体制の整備	2-2-1	救急医療体制の充実
	2-2-2	災害時の医療体制の充実
基本目標2-3 在宅医療体制の整備	2-3-1	地域包括ケアシステムの推進
	2-3-2	障害者・難病患者・がん患者などの医療体制の整備

1-1-1	地域住民が地域生活課題などを知る「学びの機会」の提供	1-1 誰もが地域の力になれる仕組みづくり
1-1-2	住民主体による地域活動の活性化に向けた取組の強化	
1-1-3	ボランティアセンター等による多様な参加支援	
1-1-4	多様な主体と連携して解決する「共創」の推進	
1-1-5	孤独・孤立対策の強化	
1-1-6	「市民力」「地域力」を活かした地域づくりの推進	
1-2-1	生きがい・やりがい生まれる社会参加や交流の促進	1-2 福祉や健康づくりが日常になる環境づくり
1-2-2	自分らしく社会とつながる多様な居場所の充実	
1-2-3	公共の場を活用した地域の“つながり”づくり	
1-2-4	誰でもできる“つながり”の普及啓発	
1-2-5	地域福祉の活動を支える「つなぎ手」の充実	
1-2-6	地域の“つながり”で守る「安全・安心な暮らし」	
2-1-1	民生委員・児童委員が活躍しやすい環境づくり	2-1 福祉関係者などとの連携強化と新たな担い手づくり
2-1-2	医療や福祉の専門職と地域の“つながり”づくり	
2-1-3	大学とのつながりで進める地域福祉	
2-1-4	地域生活課題に連携して取り組む専門職の確保	
2-2-1	多機関連携の強化による専門職の有効活用	2-2 様々な専門職との連携と包括的な支援体制の強化
2-2-2	専門職との連携によるアウトリーチ支援体制の強化	
2-2-3	福祉関係者などの分野横断的な“つながり”強化	
2-2-4	相談対応力を向上する機会の充実	
2-2-5	福祉人材の育成	
3-1-1	多様な媒体を活用した情報提供	3-1 一人ひとりに知りたい情報が届くしくみの充実
3-1-2	福祉情報のわかりやすい発信	
3-2-1	はちまるサポートの機能強化	3-2 隙間のないサービスの提供と効果的なサービス運用体制の充実
3-2-2	複雑化・複合化した地域生活課題に対応する支援スキームの共通化	
3-2-3	自分らしい生活を継続する支援へのつなぎと環境整備	
3-2-4	民間事業者が地域生活課題解決の担い手となるしくみの構築	
3-2-5	社会福祉法人との連携による地域福祉の推進	
3-2-6	地域福祉を推進する「包括的な地域福祉ネットワーク会議」の充実	
3-2-7	効果的なサービス運用に向けた評価	



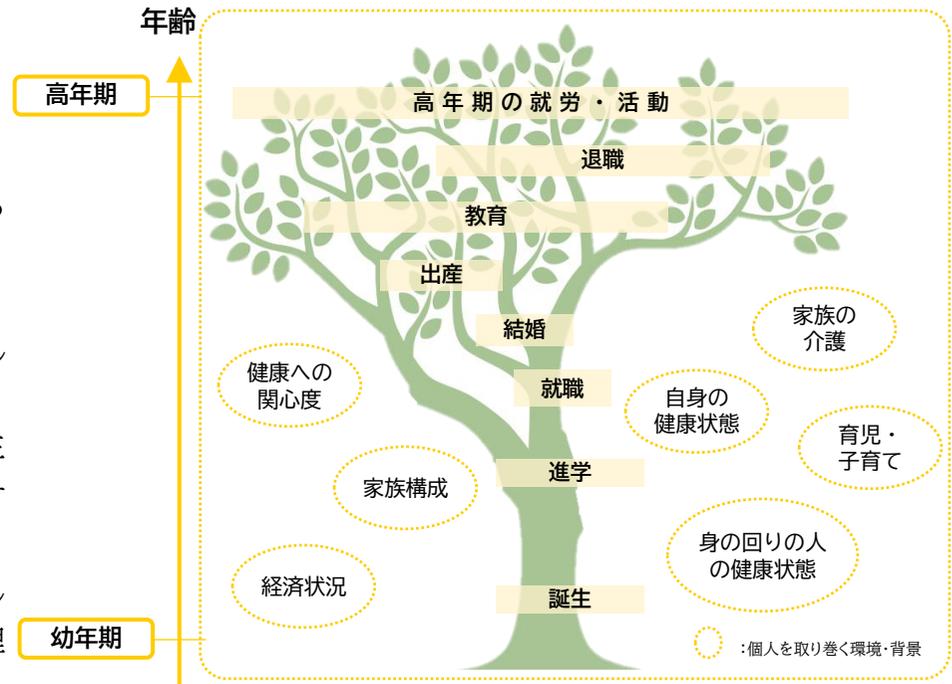
ライフコースと 八王子市のブランドメッセージ

ライフステージとは、人の一生における、加齢に伴う諸段階を表す言葉であり、性別を含めた生物学的なものとなっています。

一方、ライフコースは、その個人を取り巻く生活環境や、進学、就職、結婚、子の誕生、家族との死別といった様々なライフイベントをきっかけに枝分かれしていく個々の人生の道筋を指したものとなります。

八王子市のブランドメッセージである「あなたのみちを、あるけるまち。八王子」は、だれかのみちではなく、あなた自身のみちをあるいていけるまちを表すものであり、ライフコースの概念に近い内容となっています。

本計画においては、自分の好きなことを追求したり、地域で活躍して暮らしたり、生き生きとした人生を送るためライフコースの視点を踏まえて、計画の理念「自分で、家庭で、地域で、笑顔あふれる健康なまちづくり」を目指します。



～地域で活躍をしながら、各々のライフコースを歩んでいる八王子市保健医療計画推進会議の委員お二人の活動を紹介～

新庄良輔さんは地域でのコミュニティスクールにおいて、地域づくりの核となる公立小学校を学校任せになることなく、“地域主体”で有効活用できるように体験型学習を通じ、「子どもたちの異世代交流」、「地域住民との繋がり創出」、「早寝早起き朝ごはん（活動は休日でも 9 時から実施）」、「シニア層の活動機会創出（体験参画や見守りの場）」を作る事をコンセプトに「地域清掃で除草した雑草を用いた小学校の畑での堆肥作り」や「小学校体育館でプチ防災体験～学校宿泊」といった様々なイベントを実施するなど地域で活動しております。

また今後の活動について『小学校入学前の未就学児が安心して小学校生活を送れるよう保育園との連携を行い、まずは、保幼とシニア層との持続可能な連携活動を定着させ、いずれは近隣の高等教育機関とも小学校児童を真ん中に置いた社会教育活動を行い、連携する地域の方々の健康医療の促進に寄与することを目指していきたい』と、熱く語っていただきました。

松村豊子さんは地域の方が楽しく元気に暮らして欲しいという思いから長年、ラジオ体操等の運動を中心に地域で活動しています。

また、ラジオ体操の開始前にはメンバーと地域の美化活動にも取り組んでおり、令和 5 年（2023 年）10 月に、環境美化への功績から八王子市親切会より表彰を受け、更に同年 12 月には、ラジオ体操を実践している方々と一緒に、運動指導士の先生による、体組成検査を行ったところ測定結果が非常に良好であったことから『早朝からのラジオ体操に益々力が入ります。』と、今後の活動に向け力強い言葉をいただきました。

